

コリント人への手紙第二 第2章 15節

「私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。」

夕焼け空が映える晩秋の風を頬に受けながら散歩する。散歩道周辺から甘い柿の香りがする。かなり熟した香りである。今年は例年になく実り豊かな年となり、台風がほとんど無い年であったせいか香りが一段と強い感じがする。柿の木添いを通り過ぎると、住宅街の一面に畑が広がっている。そこを通ると、今度は土の香りがする。どの香りも自然で優しく体に良く沁みこんでゆく。

ただの通りすがりの者であるが、そこに届くほのかなかおりが気分を爽快にする。キリストのかおりはすごいとしか言えない。通りすがりの者へ届くかおりではない。救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいかおりである。かおりの源はキリストである。

そのかおりを放つのが、私たちである。散歩道で風とともに吹き抜けるかおりではない。私たちにおとずれて下さったイエス・キリストが放つかおりである。私たちの道となり、私たちと歩んでくださるイエス・キリストが放つかおりである。主と歩む者に与えられる特別なかおりがあり、それを放つ器となる。恵みのかおりである。